

【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね分校による地域支援～

しろがね分校では専門アドバイザーが中心となり、前橋市・玉村町・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達の気になる子供達についての継続的な支援を行っています。

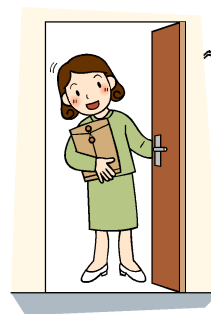
9月12日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	特別支援 学校	その他	計
件数	104件	76件	35件	3件	15件	233件

(その他は保護者や関係機関からの相談)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。

専門アドバイザーはお子さんの相談だけでなく、発達障害のある大人の方の相談を受けることもあります。大人の方の相談を受けると、学生のうちに指導すべきことが明らかになることがあります。



20歳後半の女性で、小学校の時に自閉症スペクトラムの診断を受けた方がおり、訪問先の保育園でその仕事ぶりを見ました。彼女は保育園の都合で一時的にアルバイトとして、働いていました。本人の相談を受けるだけでなく、母親と連絡を取り合ったり、職場の先生方の話を聞いたりしました。

見た目もかわいい女性で、話をしても、働く姿を見ても、障害があるとは思えないおとなしめの方で、相談されるまで全く気づきませんでした。通常の高高等学校を卒業して、通信の大学を卒業しました。

彼女からの相談は、周りの先生方の指示がわからないということでした。「ちょっと見ていて」と言われた時に何をすれば良いのか、担任の先生がいるのに、どこまで手を出して良いかということでした。普通なら、担任の先生に聞いたり、担任の表情を見て判断しますが、自分から質問することができません。

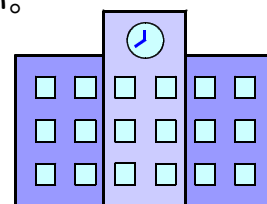
もちろん、彼女が発達障害だというのは職場も分かっていたから、具体的な指示をするように保育園の先生方には伝えました。

今度は保育園の先生方からの相談です。彼女は欠席が多いことや欠席をする時に自分から欠席の連絡ができず、母親からの欠席の電話がきます。

彼女に欠席の連絡はメールでも良いので、あらかじめ「具合が悪いので休みます。ご迷惑をかけてすみません」の文章を作成しておき、主任の先生に送付するように話しましたが、実行することはできませんでした。そして、結局、仕事は続きませんでした。

発達障害の方は得意なところと不得意なところがあります。社会生活を送るために周りの方に配慮してもらうことは大切です。しかし、本人が乗り越える課題もあります。将来を見越した指導が大切ですね。

気になるお子さんがいましたら、ぜひ、お声がけください。
先生方のお役に立てれば嬉しいです。



群馬県立渡良瀬養護学校しろがね分校

専門アドバイザー 尾岸純子

電話 027-268-6111